



神社役員に付添われて、大綱小綱の毛槍が行列を先導する。

行列の進行速度調整と言う大役。



お神輿様が行く。この行列の主役である。毎年その年の厄年のメンバーが担ぐ。

白衣烏帽子姿は清潔であり又凛々しくもある。



八幡ばやしの面々。伝承芸能としての後継者育成にも力を入れて、日頃の練習にも励んでいる。

小中学生の姿も見える。

長期予報で寺泊では白山さまのお祭、全国的には憲法記念日とことどもの日につながる五月初旬の所謂連休は心配なしの晴れの日さまマークで、いつも話題

からは雨祭りにやり易いなどとお祭り決行の花火が当然のことながら晴れやかな空に景気よとばかりは子供神楽の一行がわいわい駆やかにお祓いを受けに神社へ向う。

やがて大神樂が威勢よく新道の坂を駆け抜けて行くと次第に祭り気分の高まりが町全体に漲つて行くのが何やらいとも違つたさわめきとなつて伝わつてくる。

かつては鰯祭りとも言われたこのお祭りにはご馳走の一品に鰯の餃は欠かせないものであつたがここ数年漁になるほどの鰯

が獲れないと言うことで地物の鰯にお目にかかることが出来なかつた。それに、この布切れを財布に入れておくとお金に不自由しないとの

鰯のない鰯祭り



月刊 第 562 号

る祭りの朝はやはり心浮き立つものがある。

お祭り決行の花火が当然のことながら晴れやかな空に景気よとばかりは子供神楽の一行がわいわい駆やかにお祓いを受けに神社へ向う。

やがて大神樂が威勢よく新道の坂を駆け抜けて行くと次第に祭り気分の高まりが町全体に漲つて行くのが何やらいとも違つたさわめきとなつて伝わつてくる。

かつては鰯祭りとも言われたこのお祭りにはご馳走の一品に鰯の餃は欠かせないものであつたがここ数年漁になるほどの鰯が獲れないと言うことで地物の鰯にお目にかかることが出来なかつた。それに、この布切れを財布に入れておくとお金に不自由しないとの

丁度季節的に筈の時期に当たりも又定番と言つてよい料理のトブ揚げの一勢清掃があり、各町内全戸協力で汗を流す。終れば祭りの話を肴に一寸慰労の一杯。

今年は引きつづいて「みどりの日」には海岸の清掃が行われた。各海水浴場を中心に戸積から山田へかけての長い海岸線へ村部からも又県外からの参加者へ特に友好関係の群馬県、埼玉県の市町からのボランティア又マリーナ利用の県内他町村からのボランティアの姿も数多く見られ、当日は夏のような天候の中いい汗を流した。大勢集つての清掃作業は気分的に仲々のもので奉仕活動への気運の高まりを感じず一日となつた。

それにもしても海岸のゴミは大変なもので、勿論自然現象としてのものもあるが、人災と言えば始末に困るものが港湾内に捨てられたり置き去りにされたりで行楽マナーが問われ、観光地の頭痛の種である。



四区の神楽である。勢にまかせて町内駆け廻ることになるのだが、頭(かしら)持ちは仲々の重労働で次々に交代しないともたない。



一軒づつ廻って頭を喰む。喰んで貢うと一年厄災に過ぎることである。体の中の厄病神を追いはらって貢うとゆうわけである。



たまりもたまつたり一冬でこれ程のゴミが海岸に打上げられる。一見自然のゴミのように見えるが人工ゴミも随分混入している。美しい海辺で夏を迎える為のボランティア清掃活動。

言い伝えがあり、今年は不景気風が吹き荒れる中だけに仲々の配慮と見たが、その効果や如何に。露払い役とも言える神楽が駆け抜けでゆくと愈々神輿さまのお下りである。

各町内神社のお馬引き絢爛の衣装を着飾った木馬が子供達に引かれてカラカラと車の音を響かせて進み、楽人の奏てる笛太鼓とシンバルの合間の掛け声の中おかげが優しく首を振り乍ら

つづき、今年の厄年の青年達の等はいつもより凜々しく謹厳見える。大天狗に鳥天狗も日々の練習で確かな足取り、勿論先頭を行く大綱小綱の毛槍は行列

の姿で、氣の抜けた数日を過ごしたりと時が流れのような気分で、トントコトンと夕風に乗つて神社から聞こえてくる大太舞の太鼓の音やお参りの行き交ふ人達の久々に顔を合わせての挨拶、

子供達のはしゃぎ廻る賑やかな祭りの宵は何やら普段よりゆったりと時間が流れます。かつて借金の支払いは、現在のよう月縮めでなく

お盆と暮れの年二回でした。寺泊でも農村部では、共益費(町内費)の徴収は今も「盆暮れ勘定」です。つまりお盆を目指して走る。と

お祭り気分に浸ることは、日常性であります。お祭りの時の心理状態は、日常性である「仕事」につきまして、気の抜けた数日を過ごした後、今度は暮れを追いかけます。張つて働く。そしてお盆になつて、生きてその生を全うすること

は、多かれ少なかれ経済活動に参画することであり、それが「仕事」と呼ばれます。日常性の世界です。

お盆とお正月には、仏事、神事と結合した祝祭空間が広がり、非日常性の世界を演出します。

さて寺泊の今年の五月は、お祭りが二回ありました。三日、四日は恒例、白山媛神社の大祭でした。暑いほど的好天に恵ま

いわゆるお祭り気分です。その間に、さらに春祭り、秋祭りなど農村協同体に由来する祭礼行事が挿入され、非日常性の世界は拡大します。

お祭り気分に浸ることは、日常性である「仕事」につきまして、ストレスが回収されることで、無政府的な危険な状態とも言えます。心の理想状態でもあります。

ボストである。最後につづくお下りである。最後につづくお下りである。

供は数人で昔日の面影(神社総代はじめ町のお歴々が多く参加された時代もあった)もないが揃って賑々しく話もはずんだ

行列が近づくと下げておいた巻簾を上げて迎える人々の人達に挨拶を交し乍らの一日は大変な

ことであろうとその御苦労をねぎらいたい。

祭りの宵は何やら普段よりゆったりと時間が流れます。かつて借金の支払いは、現在のよう月縮めでなく

お盆と暮れの年二回でした。寺泊でも農村部では、共益費(町内費)の徴収は今も「盆暮れ勘定」です。つまりお盆を目指して走る。と

お祭り気分に浸ることは、日常性であります。お祭りの時の心理状態は、日常性である「仕事」につきまして、気の抜けた数日を過ごした後、今度は暮れを追いかけます。張つて働く。そしてお盆になつて、生きてその生を全うすること

は、多かれ少なかれ経済活動に参画することであり、それが「仕事」と呼ばれます。日常性の世界です。

お盆とお正月には、仏事、神事と結合した祝祭空間が広がり、非日常性の世界を演出します。

さて寺泊の今年の五月は、お祭りが二回ありました。三日、四日は恒例、白山媛神社の大祭でした。暑いほど的好天に恵ま



寺泊で最初に旗上げしたチーム。ソーランウェーブ寺泊の面々。日舞の師匠さんの指導だけに仲々手のこんだ振付け。



外来于一ム。

仲々モダンな衣装でダンシングチームと言った感じで、若さとスピードが特徴のチーム。



エレガントな衣装の寺泊チーム。役場職員などが中心で親子で参加と言うメンバーもいる。一方がウェーブならもう一方はウイング。波止場、今岡が初戸賀、一

れ、神輿行列参加者は汗だくの様子でした。子供の頃の記憶では、この行列はもっと長かったように感じます。行列が短く感じられるのは、歳のせいでしょうか。

四日は曇天でした。降りそうな気配がなかつたので、午前中、大町の露店街を歩いてみました。垂れ幕を下げたまま休んでいる店、片付けを始めた店、行き交う人もまばらで祭り後の静けさが支配していました。露店の位置はほとんど毎年、変化は見られません。金魚屋は金魚屋、玩具屋は玩具屋のままの位置です。

昔、ヒヨコ屋というのがありました。卵からかえったばかり

のヒヨコを売っていたのです。年端のいかぬ頃、父親と連れ立つて露店を巡り、このヒヨコをねだったことがあります。父親には「すぐ死ぬ」と言つて許しませんでした。大人は、得ることの喜びよりも、失うことの悲しみの方が大きいことを知つてしました。

次いで五月十八日(日)、装い新たに「観光まつり」がありました。昨年の夏祭りで好評を得た「よさこい踊り」と、今年で三回目になる「観光まつり」を合体させ、「寺泊観光まつり」とよさこい大会」と銘打った新しいお祭りの誕生です。

少し雲つていましたが、暑くもなく寒くもなく、こちらも絶

好の祭り日和に恵まれました。本部会場となつた町の陸上競技場内は、番屋汁、焼きそば、綿飴、日曜雑貨や古着などフリーで立ち並び、行楽客はじめ町うちらんの人、数千人の熱気で賑わいました。

このお祭りのメイン・イヴェントは「よさこい踊り」です。寺泊から二チーム、県外から二チーム、合わせて二十九チーム、のべ千人が、奇抜な舞台衣装で競い合うようリズムに乗つて踊りを繰り広げました。陸上競技場は壮大なショーコンペティションとなり、拍手と声援に包まれました。

この後「よさこい踊り」は、町内四会場を回り、魚の市場通

誌代御後援（敬称略・順不同）

りを流して、夕方まで盛んな祭りを受けたそうです。まさしく「よさこい現象」とでも言うべき事態が起きていることを実感しました。

この新しいお祭りに直接ふわふわ合った人は、二万人を越すだらうと言われています。観光寺泊の底力をを見せつけられた気がしました。

小波会四月句会詠草

兼題 山笑ふ・踏青他当季
山笑ふ
開店を待つ鮒茶屋
北陸道
抜けて湖の国山笑ふ
小島 竹内 霍山
冬扇

山笑ふ
村に久々嫁の来る
良きことの
重なる家や山笑ふ
外山 海子

青き踏む
後追ひの娶双手あげ
大越碧水子

再検査
ますます言われ青き踏む
水沢 蕉子

踏青や
即身仏の座禅石
能登 頑牛

踏青や
大地の鼓動足裏に
江原 汀子

青き踏む
なぞりて碑誌の刻あわし
内藤 広利

回り道
せすに真っ直ぐ青き踏む
中村 流麗

春愁や
杖に凭れてただ歩く
斎藤 紫苑

丁寧に
髪剃り直し牡丹の会
加勢 白汀

葉桜や
暗き土間もつ武家屋敷
小形 美代

深々と
埋るくるぶし芹を摘む
矢尻ゆきを

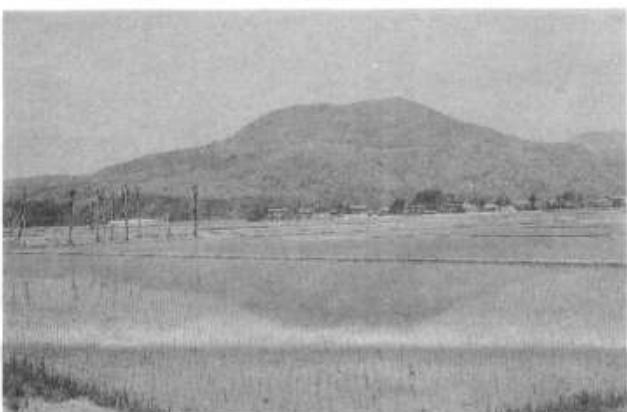
あとがき
祭りのあとと淋しさは
遠く微かに耳底に
残る太鼓と笛の音が
雨を含んださみどりの
風に吹かれて消えてゆく

たたみはじめた金魚屋の
えくぼの優しいおばさん
貰った金魚が三日目に
死んで浮いてた金魚鉢
ばやけて水に溶けそうな
赤い金魚のあの色を
梅雨の晴れ間の茜雲
見るたびふいに思い出す

夏のよう汗ばむ日があると
思えば急に冷えびえとした日が
来たりして片付けてしまった炬
燐が恋しく思われたりと不安定
な天候の中で五月も終ろうとし
ています。観光まつりも天候に
恵まれる中で成功裏に終り愈々
夏の観光シーズンへ向って期待
がふくらんでゆくふるさとです。
先月号について一読者から誤字

についてご指摘いただきました
織→織(のぼり)御興→神興
(みこし)校正の時ついつい気
づかず見過ごしてしまって、
いつも二三個所はあるようです。
どうぞ遠慮なくご教示下さい。
有難うございました。

寺泊ふるさとだより
毎月二十日発行
誌代税共(百円)
編集人 中村興樹
発行人 中村興樹
発行所 新潟県寺泊町
ふるさとだより
郵便番号 九四〇一二五〇一
ダイヤル局番 〇二五八七五
電話 〇二〇二九番
振替番号〇六二〇三五七四五
印刷所 吉野印刷株式会社



田植えも終り早苗が葉先を五月の風にそよがせ、田面に
新緑の国上山が映る。
さわやかな季節である。



弥彦山への野積からの道路脇にこんな地蔵さまがおらっ
しゃる。

雨の季節を迎えるためにミノカサが贈られた。



快晴連休の港の岸壁は釣人で賑わう。

小アジや稚アユが釣れる。

春の日光は強烈、日焼けにご注意。